



みなとしみず

発行

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡市清水区日の出町7番2号

TEL. 054-352-4146 (代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

清水港がますます便利に！新規コンテナ航路が続々就航

現在、清水港には26航路・週27.5便のコンテナ航路が就航しており、毎月平均45,000TEUの貨物を取り扱っています。また、前年度の同時期と比較すると週4便増えており、利便性の向上や貨物の増加が期待されているところです。
*1TEU=20フィート(約6m)コンテナ1個

清水港は、ポートセールスの国内発祥の地でもあり、大型インセンティブ（公共料金減免措置）により、入港料や岸壁使用料などの減免を行うなど、ユーザーの立場で考えられた、非常に使いやすい港です。

今後、更なる利便性の確保のためにも、今年度より着工する新興津第二バースの早期完成・早期供用に向けて、国と港湾管理者（静岡県）が協力し合い整備を進めて参ります。



写真は、11月17日に新興津ふ頭に入港した「MAERSK SEVILLE」(全長335m)です。
船体のマースクカラーが、ガントリークレーンの色や背景の富士山にピッタリです。

ファインダーの向こう

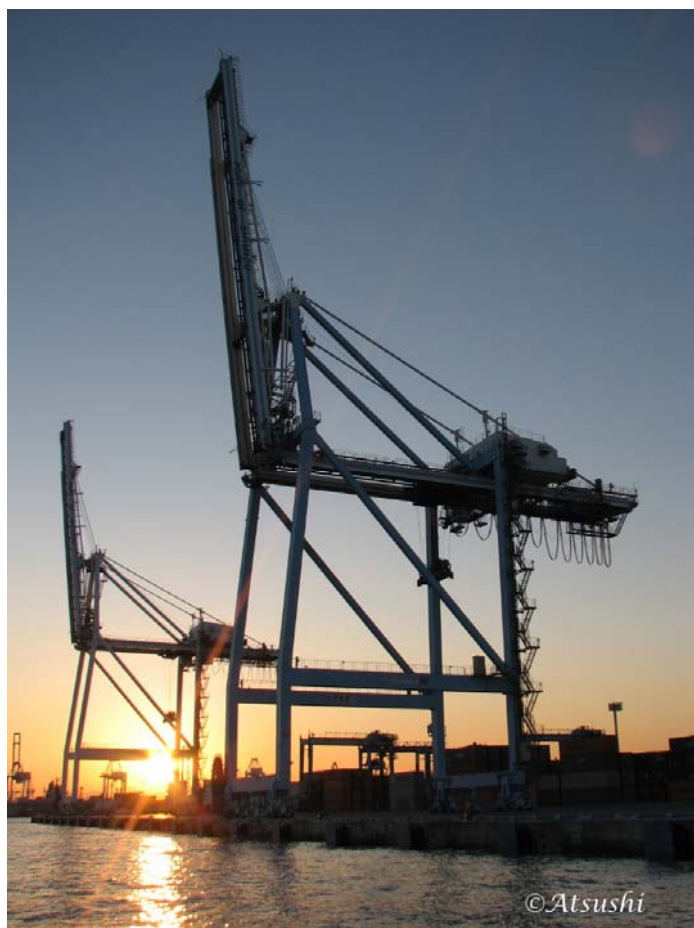
コンテナターミナルのシンボルといえばキリンのような形のガントリークレーンです。

ガントリークレーンはコンテナの積み卸しに使われています。清水港では袖師第一埠頭と新興津埠頭に合計8基のクレーンが設置されています。

コンテナ船の大型化に伴って、ガントリークレーンも大型化してきました。いわゆるポストパナマックスタイプのコンテナ船では、通常、船上にコンテナが18列置かれているので、クレーンの方もそれに応じた腕の長さ（アウトリーチといいます。）が必要になります。新興津埠頭にはポストパナマックス対応のクレーンが3基設置されています。

クレーンの作業室は地上から30～40メートルの高さにあって、足がすくんでしまうような高さです。クレーンはオペレータが一人で操作しています。清水港の場合には、自動操縦装置もあるものの、オペレータが手動で操作する方が早いそうです。一時間に約30個のコンテナを揚げ積みすることができますが、風の強い日や波があるときには、効率が落ちてしまうそうです。

今年着工する第二バースが完成して、大きな6基のクレーンが並んでいる姿を見るのが楽しみです。



©Atsushi

ガントリークレーン

Photo : A. Fujii

清水港湾事務所長 藤井 敦

みなとへの想い 松崎町長 深澤 進

松崎港は、古くは木炭、薪などの搬出基地として、また定期客船の寄港地や近海漁業の基地として重要な役割を果たしてきました。平成4年度からは、物流機能の強化や旧港における交通混雑の解消、海上交通の拠点、防災港として松崎新港湾の整備が始まり、水深6mの岸壁100mの完成、平成17年からの供用開始により石材の搬入出が行われています。現在、石材運搬船とカーフェリー等の大型船舶の同時接岸可能な2バース目の岸壁等の整備が着々と進められ、平成22年には完成の運びとなっています。



松崎港全景 H19. 11. 19 撮影



松崎新港(特定地域振興需要港湾)
2バース目の岸壁を整備中

伊豆地域は、観光が基幹産業であり、海から観光を支えるうえで海上交通ネットワークを形成することが重要となります。現在、清水港・御前崎港及び大井川港と松崎新港を結ぶ、カーフェリーの就航を積極的に要請しており、就航の暁には伊豆地域までを海上ルートで最短で結び、静岡以西を始め、富士山静岡空港による国内遠隔地や東アジア方面からの観光客の誘致が図られるものと期待しています。

伊豆・松崎と言ったら…「なまこ壁」



松崎港近くにある「なまこ壁通り」



松崎新港で行われている石材の積出しの様子

また、松崎港一帯は、海水浴、シーカヤックなどマリンスポーツの場や海のピカ市、太鼓フェスティバルなどイベントの場として、観光客や地域住民の賑わいの空間、交流の場となっており、今後新港で検討されるターミナルの設置や周辺環境整備と合わせて、港を核とした観光拠点づくりを進め、地域振興を図っていききたいと考えています。



本ページの写真提供: 松崎町

私の母港 ～ロッテルダム港と清水港～

京都で生まれ育ち、社会人になってからは東京と海外を行き来する年月を過ごしましたが、5年前に清水に来て本当に素晴らしい町にめぐり会えたと思っています。

私にとって母港と言えるのは、オランダのロッテルダム港と清水港です。

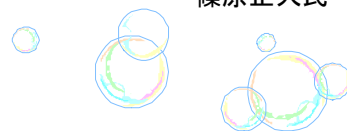
ロッテルダムはヨーロッパ最大の港。合計6年間住みました。町の中心部にある旧港は、帆船バージなどを係留し野外海事博物館として使われています。観光スポットとしてまた市民が憩うカフェやレストランが集まる場所として人気があります。

一方、コンテナやバラ積み貨物を扱う埠頭は、どんどん河口に向かって拡張されてゆき、今では外洋に突き出た巨大な埋立地にその中心を移動しています。

ロッテルダムが物流の拠点として確固たる地位を築けた秘訣は、港が所有する広大な臨海地区に、官民が一体となって企業を呼び込もうとする意気込みにあります。



東海大学海洋学部教授
篠原正人氏



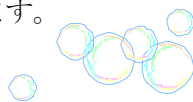
ロッテルダム港拡張計画（マースフラクテIIプロジェクト）

提供：ロッテルダム港



ロッテルダム旧港を利用した野外海事博物館

もう一つの私の母港「清水港」は、規模ではロッテルダムにはるか及びませんが、世界でも有数の美港と言えるでしょう。官民の協力による色彩計画が功を奏して、センスもよくなりました。今後それに加え、三保、巴川、清水駅東側などが総合プランのもとに整備され、人々を魅了する町になればと思います。



東海大学近くの三保の松原にて

日本平から見た清水港と富士



「物流」については、興津コンテナ埠頭の拡充など「進化」が進んでいます。今後臨港地区には、既存の企業に加え新たな産業が集積し多くの仕事を生み出してくることが、「みなとまち清水」の生きる道となりましょう。

港町は観光だけでは生きていけません。様々なビジネスをもたらし、雇用を提供してくれる「物流」があって初めて「豊かなみなとまち」となるのです。



本ページの写真提供：篠原正人氏

現場から 御前崎沖にGPS波浪計が設置されます

御前崎沖位置図



清水港湾事務所では、平成21年1月中旬に、静岡県御前崎灯台の南方約2.2km 沖にGPS 波浪計を設置します。

GPS 波浪計は、海上ブイにGPS アンテナを設置し、衛星によって海上ブイの動揺を計測する新しいシステムです。

国土交通省港湾局では、全国の沖合にGPS 波浪計を設置し、港湾施設の設計・施工に必要な外力条件である波浪観測を進めており、中部地方整備局管内では、今年2月に設置された三重県尾鷲沖と、御前崎沖の2基が整備されます。

GPS 波浪計を導入することで、平常時の波浪情報収集を、より高精度に行うことが可能になるとともに、津波発生時には、津波データを陸域に到達する、数分から10分程度前に観測することが可能となり、沿岸域での津波対策への活用が期待されます。

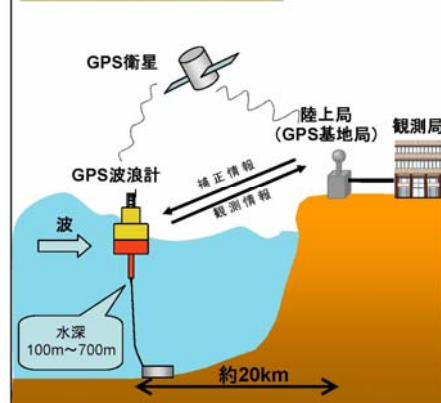
設置するGPS 波浪計は、現在、広島県の尾道にて製作中です。年内中に製作は完了し、その後、御前崎港へ一旦運搬した後、1月中旬に現地へ設置予定です。



製作中の GPS 波浪計です。
完成すると、高さ19m、直径5m、重さ47tになります。

←人の大きさと比べてみてください。

GPS 波浪計システムの概要



全国の設定箇所



えっ!? 海が 二酸化炭素 を吸ったり? 吐いたり?

先日、神戸海洋気象台の海洋気象観測船「啓風丸(けいふうまる)」の一般公開が清水港で行われ、海洋観測について、いろいろと教えていただきました。

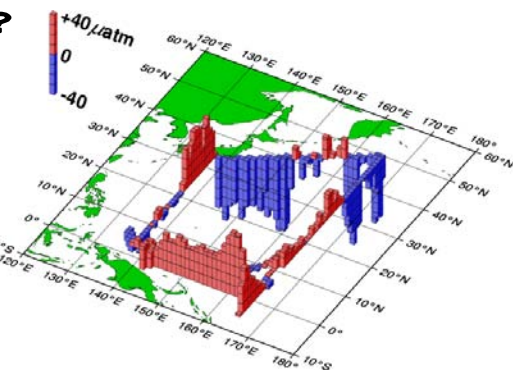
ここでは、海と二酸化炭素の関係についてご紹介したいと思います。

海と大気の間には二酸化炭素の濃度差が生じると、濃度の濃い方から薄い方へ、二酸化炭素が移動します。つまり、大気の方が濃い場合は、海は二酸化炭素を吸い、海の方が濃い場合は、海は大気に向かって二酸化炭素を放出します。右のグラフは、啓風丸が、赤道域までを観測したデータです。赤い柱が海からの放出、青い柱が吸収を表しています。

啓風丸は、気象庁の船舶で、日本周辺や赤道域までの水温や海流、塩分や二酸化炭素の量などを観測しており、海洋が気候に与える影響を分析するためのデータ収集を行っています。

海洋は、地球面積の7割を占めており、海水温の上昇は地球温暖化現象のひとつとされています。啓風丸は、その海洋の変化に目を光らせ、地球温暖化への警告を鳴らしています。

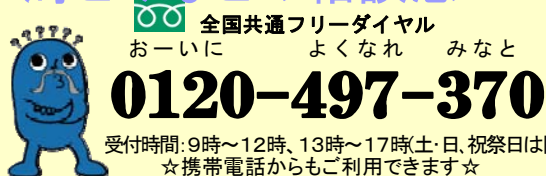
大切な海のためにも、地球温暖化の要因とも言われる二酸化炭素の削減に、前向きに取り組んでいきたいですね。



2008年夏の気候-海洋間の二酸化炭素濃度差
(資料提供: 神戸海洋気象台)



海とみなとの相談窓口



- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■ 本誌に関するお問い合わせ先 ■

清水港湾事務所 企画調整課
太田・屋敷
Tel 054-352-4148
e-mail
shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp